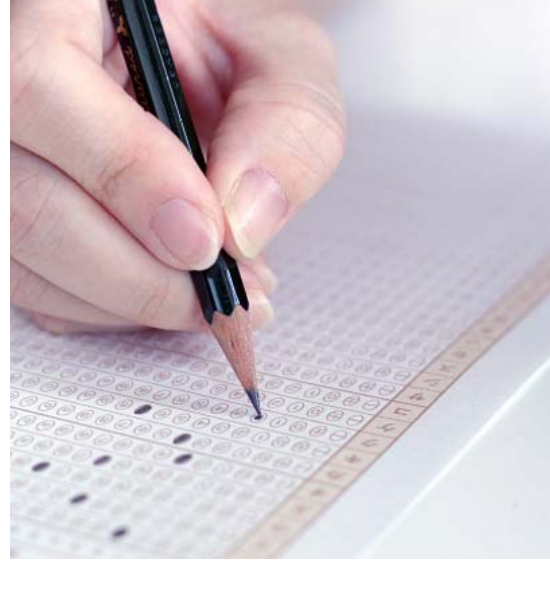


決戦目前！



1月10日（日）まで開講されていた冬期講習。これが終わると、センター試験まで残すところいよいよ1週間となり、受験生も最終調整の期間となります。しかしながら、悔いを残さないための努力にはまだ十分な時間が残されています。私達もぎりぎりまで応援しようと今回行ったのが『センター直前対策講座』です。

何より「結果につなげる」ことに主眼を置いたプログラムを検討した結果、理科・社会を中心とした講義のラインナップとなりました。また、一人でも多くの受験生が参加できるように英語や古文の対策もプログラムの中に組み込みました。生徒たちには自分の受験科目にあわせて講座を選択してもらいました。

受験直前の諸注意



実際の対策授業を行う前に、まずは「受験の心構え」について講師陣から諸注意を伝えました。人生で何度も体験することのない受験ですが、毎年受験生と共に戦っている私達のところには、多くの体験談・経験値があります。本番をどのような形でむかえるべきか、そのポイントについて講師たちが力をこめて説明しました。

当日の時間割

10:00～10:15	諸注意			
10:15～11:05	物理	生物	化学基礎	古文演習
11:10～12:00				
12:00～12:45	昼休み			
12:45～13:35	地理	日本史	※演習	
13:40～14:30				
14:45～15:35	化学	英語	※演習	
15:40～16:30				
16:30～16:50	激励会			



「合格キップ」を渡しました。



同じ問題は出ないのだから・・・



授業で扱った問題とまったく同じ問題がセンター試験で出題されることを期待しても仕方ありません。そうだとするとセンター試験の問題を過去の傾向を踏まえ、それに対して「いかに解くか」という「解法を身につけること」が重要になります。各科目の授業では過去の出題を手がかりに、問題の着眼点とアプローチの仕方をレクチャーし、絶対にはずしてはいけないポイントを強調して解説していきました。

人事を尽くして・・・



現役生にとってはいうまでもなくセンター試験は初めての経験。どのような心構えで迎えればよいかイメージもつきにくいので、授業終了後にはプリントを配布して「前日・当日の過ごし方」をアドバイスしました。また、残り1週間でモチベーションを落とさないようにするために、講師の実体験なども話しながら、激励のメッセージを送りました。最後に生徒たちを書いてもらったアンケートでは、「緊張していたけど、少し気持ちがラクになった」、「先生の話聞いて勇気づけられた」、などのコメントがたくさん見られました。本日の対策講座がぜひ志望校合格につながればと思います。

参加した生徒のアンケートより

◆1・2コマ目の授業の感想を聞かせてください。(授業科目＝ 古文)

17分という時間設定で受けて、今自分かどのくらい時間解かなければ

いけるかということが再認識できたので良かった。

◆1・2コマ目の授業の感想を聞かせてください。(授業科目＝ 生物)

覚えていなかったところがハッキリ分かったので、あと数日で今までのきりと

覚えられていなかったところの復習をします

出題なところを解けたので、良かったぞ

◆3・4コマ目の授業の感想を聞かせてください。(授業科目＝ 日本史)

間違えずいポイントがたくさん取らせてもらって助かりました。

「日本史は直前まで見ていた所もある」と言われて、あと数日頑張ろうと思いました。

◆3・4コマ目の授業の感想を聞かせてください。(授業科目＝ 地理)

都市の名前を地図帳でこれからたくさん確認していきたい。

たくさんの知識をつけたのが良かったです。

◆5・6コマ目の授業の感想を聞かせてください。(授業科目＝ 英語)

・それぞれの解き方や着眼点を復習し直して、先生に言われた通りに問題を解いたらできそうな気がしました。残り問題以降も時間かけて解きたいと思います

◆5・6コマ目の授業の感想を聞かせてください。(授業科目＝ 化学)

無機と有機、今日やったところは絶対まちがえないようにします！

まだまだちゃんとおぼえておかないところがあるので、今日いたいたテキストを繰り返しするようにします！

担当講師より

山崎 健弘 (英語)

この時期に受験生がとてもナーバスになっているのを、会話の端々から感じさせられます。それは「絶対に失敗しちゃういけない」という想いが強いからに他なりません。本当は大学受験に失敗しても人生が終わるわけではないし、何度でもやり直すことができます。それでも、今まで全力で頑張ってきたからこそ「絶対成功したい」という気持ちが膨らんで、自分自身へのプレッシャーになるのでしょね。

九大パルで一緒に頑張ってきた生徒たちに「失敗して欲しい」などとはもちろん思いません。ただし、ガチガチになっては解ける問題も解けなくなってしまうので、「失敗してもいいや」ぐらいの気構えで、肩の力を抜いて本番を迎えて欲しいと思います。そうなるように、生徒たちに最後のメッセージを送りました。

受験生のみなさん、Take it easy!

